

9/25 (火) PM5:30~

ベンチャーキャピタルは

何を見て投資するのか？

ベンチャーキャピタリストはこんなところを見ている

■講師略歴

2010年京都大学大学院工学研究科材料化学専攻修士課程修了。同年、富士フィルム(株)有機合成化学研究所にて医薬品等の研究開発に従事。2014年よりThomson Reutersにて特許・文献情報関連業務に従事。

2015年にニッセイ・キャピタル(株)にて主に研究開発型ベンチャー企業への投資を担当。投資支援先は20社を超え、8社の社外取締役を兼務。国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)や国立研究開発法人科学技術振興機構(STI)等の事業プロモーターを務める等、積極的なベンチャー支援に取り組む。



井本 潤一 氏

ニッセイ・キャピタル株式会社
シニアベンチャーキャピタリスト

～講演概要～

事業拡大や企業の成長に伴う資金調達、経営者にとって必須の知識です。資金調達、そして事業への投資など考えると、お金を上手に調達することは、リスクを減らすだけでなく、成長を健全に加速することにもつながります。

今回は、ベンチャーキャピタリストとしてベンチャー企業への投資(支援)の最前線におられる井本潤一氏に、これまで携わってきた見識をふまえ、ベンチャーキャピタルとの上手なつきあい方、資金調達の仕方、そのポイントなどについてお話ししていただきます。

・・・多くの皆様のご参加をお待ちしています。・・・

■日 時 : 平成30年9月25日(火曜日)17:30-19:30

※セミナー終了後、講師を囲んでの名刺交換会を予定しています。

■場 所 : くまもと大学連携インキュベータ・会議室

(熊本市中央区南熊本3-14-3/TEL:096-364-5115)

*駐車場スペースには限りがあります。公共機関のご利用をお願い致します。

■受講料: 無料

■定 員: 50名(先着順/定員に達した場合はキャンセル待ちとなります)

■申込方法: 氏名・会社名・部署・役職名・連絡先(電話・FAXメール)をメール又はFAXで 9月21日(金)までにお申込み下さい。 ※2枚目がFAX申し込み用紙となっております

主 催 : 独立行政法人 中小企業基盤整備機構九州本部
中小企業大学校 人吉校・直方校

共 催 : 公益財団法人 くまもと産業支援財団

■問い合わせ先 くまもと大学連携インキュベータ

〒860-0812 熊本市中央区南熊本3-14-3

TEL.096-364-5115 FAX.096-364-5116

E-mail: kdri-info@smrj.go.jp ※お気軽にお電話でもお問合せください。





9/25 (火) 第115回 KDRIイブニングセミナー 参加申込

氏名	E-MAIL	部署名	役職名
	@		
	@		
	@		
	@		
会社名			

※個人情報の取扱いについて

ご記入いただきました内容(個人情報等)は本セミナーの実施、運営のために使用します。ただし、主催・共催機関が今後実施するセミナーや講演会等のご案内に利用することがございます。

※くまもと大学連携インキュベータは独立行政法人・中小企業基盤整備機構が設置・運営しているインキュベーション施設です。



詳細図

会場のご案内

■鉄道で.....南熊本駅(JR豊肥本線)下車 徒歩1分
 ■バスで.....南熊本駅前バス停 下車
 徒歩1分(交通センターから市営・熊本バス利用)
 ■駐車場.....お車でお越しの方は、来客用駐車場(1~8番)
 ※駐車台数は多くありませんのでできる限り公共機関をご利用ください。



ニッセイ・キャピタルでは、「From Seeds to Exits」をコーポレートスローガンに掲げ、新しい時代を担う競争力・成長性を有するベンチャー企業の良きパートナーとして、資金面での支援を始め、経営・財務等に関するアドバイス等、様々な形でサポートをさせていただきたいと考えております。

その一環といたしまして、今回、ベンチャー企業の皆様が今後事業を拡大する上で必要となる、資金調達等に関するセミナーを開催させていただきます。

人口構造の変化・テクノロジーの急速な進展・環境問題への対応といった大きなトレンドの中で、私たちの社会が大きく変わろうとしています。この変革の時に、高い志を持つベンチャー企業と共に、挑戦し続けるベンチャーキャピタルとして引き続き努力してまいります。

会社紹介

ニッセイ・キャピタル株式会社
 会社設立 : H3年4月
 代表取締役: 安達 哲哉
 主要株主 : 日本生命保険(100%)
 資本金 : 30億円
 ファンド規模: 総額600億円
 役員員数 : 22名(うち投資部11名)

- 【ファンド・運用の特徴】
- ◆日本生命との二人組でファンドを運用
 - ◆後続ファンドでの追加投資も可能(=長期間の資金供給と事業サポート)
 - ◆追加投資を含め最大10億円まで投資可能
 - ◆積極的にリードVCとして投資
 - ◆VC資金調達前のスタートアップ支援を積極化

【H29年度投資実績】

